件名	軽度外傷性脳損傷についての啓発・周知及び労災障害等級認定基準の見直しに関する陳情		
提出者 住所氏名	江東区亀戸 軽度外傷性脳損傷友の会 代表委員 C		
受理年月日	平成25年2月7日	受理番号	第3号

要旨

- 1 軽度外傷性脳損傷について、区民、特に子育て世代及び保育園・幼稚園・小中学校の教育現場へ啓発・周知を図ってください。
- 2 下記事項について、国会及び政府に対し、意見書を提出してください。
 - (1) 他覚的な神経学的検査によって、軽度外傷性脳損傷と診断され働けない場合には、労災の障害（補償）年金が支給できるよう、労災障害等級認定基準の見直しをすること。
 - (2) 軽度外傷性脳損傷について、教育機関への啓発・周知を図ること。

(理由)

軽度外傷性脳損傷（MTBI）は、交通事故や高所からの転落、転倒、スポーツ外傷などにより、頭部に衝撃を受け、脳内の情報伝達を担う神経線維「軸索」と呼ばれるケーブルが断裂するなどして発症する病気です。

2007年、世界保健機関（WHO）の報告によれば、外傷性脳損傷は世界で年間1000万人の患者が発生していると推測されており、今後2020年には世界第3位の疾患になると予測され、その対策が急務であると警告されています。

WHOの報告から累計患者数を推計すると、日本には過去20年間だけでも数十万人の患者がいると考えられています。しかも、この病気はMRIなどの画像検査だけでは異常が見つかりにくいため、労災や自賠責保険の補償対象にならないケースが多く、働けない場合には経済的に追い込まれるケースもあるのが現状です。

主な症状は、高次脳機能障害として記憶力・理解力・注意力の低下をはじめ、てんかんなどの意識障害、半身まひ、視野が狭くなる、におい・味がわからなくなるなどの多発性脳神経まひ、尿失禁など複雑かつ多様ですが、本人や家族、周囲の人たちもこの病気を知らないために誤解が生じ、職場や学校において理解されずに、悩み、苦しんでいるケースが多々あります。

しかし、包括的な神経学的検査及び神経各科の裏付け検査を実施すれば、後か

らでも外傷性脳損傷と診断することができます。

私たちは、こうした病気に悩む患者と家族による「友の会」を結成し、国などに早期に労災障害等級認定基準の見直しをすることを求め、患者救済のための働きかけを行っています。

厚生労働省はMTBIに関する省内連絡会を開き、外傷性脳損傷の知見を有する医師や「友の会」からヒアリングを実施してきました。

そこで、WHOの警告を踏まえ、受傷時の意識障害が軽度でも、重症の外傷性脳損傷を引き起こすことがある軽度外傷性脳損傷について、多くの区民に周知を図っていただきたいと思います。

さらに、この病気で苦しむ患者の救済のため、労災障害等級認定基準の見直しを早期に行うとともに、教育機関への啓発・周知を図るよう、国会及び政府に対し、意見書を提出してください。

以上の趣旨をご理解の上、上記事項の実現をお願いいたします。

以 上